慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済組織としての社会主義と資本主義 A.C. Pigou, Socialism versus Capitalism 1937.
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1938
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.32, No.2 (1938. 2) ,p.275(123)- 280(128)
JaLC DOI	10.14991/001.19380201-0123
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19380201-0123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

經濟組織としての社會主義と資本主義

A. C. Pigou, Socialism versus Capitalism 1937.

加田哲二

一

社會主義に對する批判は、第十九世紀の中葉から現在にいたるまで無數に存する。而して社會主義批判の困難な點は、社會主義そのものが、一の既成の社會的組織でなかつた點にあつた。批判者は常に社會主義が如何に觀念せられてゐるかを決定した後に、その批判に向はねばならぬ。しかも、社會主義の主張は、また誇張していへば、社會主義者の數ほどあるといつてもよい位である。從つて批判者の中には、批判に好都合な社會主義概念を設定することによつて、批判を行ふものすら出來て來た。即ち社會主義者の主張してゐない社會主義に對する批判をも敢てするに至つてゐる。

しかるに、ロシア革命が起つて、ソウエート聯邦が形成せられ、社會主義的計畫經濟が實行せらるゝに及んで、社會主義の批判の重點は、こゝに集中せらるゝこととなつた。勿論、ソウエート社會主義計畫經濟の基礎理論である共產主義またはマルクス主義に對する批判は、多數存在する。しかし、その方面の文獻の論ずるところは、多く抽象論であつて、具體的なものではない。現在の社會主義批判において、興味を持たれ、また重要と考へられるの

は、具體的批判である。具體的批判は、ソウエート社會主義計畫經濟に向けられてゐる。

ソウエート全體またはその計畫經濟に對する批判は無數に存在するが、その顯著なものとして、筆者は次の三篇を擧げたいと思ふ。

一　アンドレ・ジート　ソウエート旅行記

二　Sidney and Beatrice Webb, Soviet Communism 2 vols.

三　Leon Trotsky, The Revolution betroyed. What is the Soviet Union and where is it going?

ジートの立場は、ソウエートに同情的でありながら、その全幅的支持をなし得ないものであり、殊にソウエートの劃一主義に對して批判的であり、その計畫經濟による生産の粗惡なことに對しては、失望的である。この點では彼は、寧ろ結果において、資本主義の競爭制度の能率性をすら認めてゐるのである。これに反して、全然ソウエートに同情的なのは、ジトニー・ウェッブである。彼が英國社會主義としてのフェビヤニズムの指導者であることは、周知の事實であるが、このフェビヤニストに對しては、ソウエートの計畫經濟は、大きな魅力であつたらしい。彼は千五百頁の大冊の殆んどすべての部分で、ソウエート計畫經濟の成功を讃えてゐる。殊に興味の深いのは、ウェッブが、このプロレタリア獨裁の國において、その獨裁性を見やうとしない點であらう。このデモクラシーの主張者に對しては、可成の越境的見解であると思はれる。同じデモクラシーの立場に立つカアル・カウッキイなどと比較するとき、今昔の感なきを得ない。この政治問題に對する痛烈な批判者は、トロッキストの總師レオン・トロッキイであらう。彼は、前掲の書物の中で、ソウエートの官僚主義に對して、痛烈な批判を行つてゐる。彼によると、ロシア革命は、社會革命を遂行したのであるが、その經濟組織を運用すべき政治組織において、ツアリズムに代つて、スターリニズムの官僚主義を設定した。來るべき革命は、この官僚主義を打破するものでなければならぬとするのが、トロッキイの見解である。トロッキイの「欺かれた革命」の要領を記したものに、

Max Eastman, The End of Socialism in Russia 1937

がある。トロッキイの著作發行以前に刊行されたものであるが、簡單にトロッキストの立場を知るためには便利である。

二

こゝに紹介しようとするビグー教授の「社會主義對資本主義」は、以上の三著と異つて、ソウエート計畫經濟そのものの批判ではない。しかし、それは、ソウエート計畫經濟に關係のないものではない。ビグーは、單に利潤の廢止をもつて、社會主義の特色としない。それは資本主義下における協同組合制の下においても行はれ得ることであるとし、ソウエート計畫經濟が現に存在する以上、中央的一般計畫經濟を社會主義の本質としなければならぬことを強調してゐる。これに對して、資本主義は、利潤のための生産であることを根本とするが、その利潤追及の自然的整調が、社會主義における中央的一般計畫と同一の作用をなすといふのである。社會主義的計畫經濟は、一般の利益のためにする生産であり、資本主義は利潤追及のためにするものであるが、二つの組織の中に、互に異種のものが混存することはある。即ち資本主義下における一般的利益のためにする諸施設――例へば燈臺とか道路の如きもの――は、資本主義といふ大洋における一般的利益といふ島嶼を意味するのであり、また社會主義における營利事業の許容の如きは、社會主義大陸における湖沼の如きものである。兩者は交互に錯綜した關係に存する。

かくの如き本質規定の下に、ビグーは社會主義と資本主義との比較對照をなしつゝ、これを批判しようとするも

のである。彼の著書は、百四十頁の小冊子であつて、決して大著をもつて許すべきものではない。彼自身も、その序文の中で、この書は專門家に讀者を得んとするものではなく、反つて、一般讀者に向つての著述である旨を述べ、その論述を、社會主義と資本主義の經濟的方面のみに限定し、從つて社會主義の國際的性質の如きは、これを論外に置いたと斷つてゐる。從つて、この書に對して、社會主義と資本主義とに對する全般的批判を求めやうとするのは、酷であるし、實際施設としてのソウエート計畫經濟に對する現實的批判も聽くことを得ない。しかし、正統派經濟學の傳統を守る巨匠が、如何に資本主義と社會主義とについて、考へてゐるかは知ることが出來やうと思ふ。

三

ビグーは、社會主義と資本主義に關する經濟問題を主として論じてゐる。第一に所有及び所得の不平等の問題であるが、この點は社會主義が最も烈しく資本主義に對して攻擊の鉾先を向けてゐるところである。しかるにイギリスの社會主義者によれば、イギリスにおける社會主義の實現方法は、買收または賠償の方法によるのであるから、社會主義實現の曉においても、富の所有に差別のあることは、確實である。しかし、この場合資本主義と異るところは、この所得の所有者が直接に生產事業に投資し得ないことである。しかし、これに對しては、一定の利子を附するので、所得そのものにも差別を生ずるのは、當然である。たゞ社會主義の下においては、累進的所得稅並に高率相續稅によつて、これを抑制するのであるが、かくの如き方法は、資本主義下においても採用するところである、たゞ高率租稅によつて、搾取的部分を全部國庫の收入とするとしても、租稅支拂以前の所得に差異の存することは事實であらう。問題は、租稅支拂後の所有金額の問題となるのであるが、それを全體的に徵收することは、不可能であるとすれば、この點において資本主義と社會主義との兩制度の差は、あまり大といふことが出來ない。たゞビグーは、イギリス社會主義の買收または賠償的實現方法についてのみ、論じてゐるが、ロシア・ボルジェヴィキ的方法については何等論及してゐないのは、この書を讀むものをして、稍失望せざるを得ざらしむるものであらう。（第二章）

次に問題とせられてゐるのは、生產資源の割當の問題であるが、資本主義下では、これは投資の方法によつてなされ、社會主義下では、統計的方法による中央政權の命令によつてなされる。資本主義下においては、すべての限界生產物の價値が均等になるやうに、投資せらるゝのが、最大の利益を齎らすものとせられてゐるが、この困難は、生產物配給の上から、社會主義の下においても存在する。中央政權の統計的研究の結果に基く、命令が必ずしも、この經濟計算を成立せしめるとは限らぬ。そこには困難が横はるものと見なければならぬ。中央政權の命令といふ單純な方法を以て、このことを簡單に取扱ふことは危險であらう。（第三章）

第三に問題となるのは、失業の問題である。失業には、相對的失業と絕對的失業の二つがある。前者は、一生產部門から他生產部門に勞働者が移動する場合に起るものであるが、この種の失業は、資本主義下においても、社會主義下において、存在する。即ち半年に生產部門を變更するものとすれば、その間二三日の失業が存在する如くである。絕對的失業は、一九二九年以來の世界恐慌當時に現はれた如きものであつて、この期間にサウエート聯邦においては、何等の失業を見出し得なかつたと社會主義者は主張する。しかし、この期間において、サウエートにおいては、第一次五ケ年計畫實行中であり、重工業に對して極度に多額の投資が行はれた時代である。資本主義下におけるブームと同性質の現象が、社會主義組織下において行はれたのであるから、從つて失業が存在しなかつたのは、當然であり、資本主義の下においても、かゝる場合には、失業は存在しない。これをもつて社會主義下に失業なしと斷定する譯には行かないのである。經濟といふ觀點のみから見れば、資本主義と社會主義も、同一の立場に

立つのである。（第四章）

資本主義においては、生産に對する刺戟は利潤によつて行はれる。これあるがために、生産の增加が促進せらるゝとする。社會主義の場合には、その窮極の到達點において、必要に應じての物品の配給を行ひ、能力に應じての勞働をなさしめるのであるが、その現段階の下においては、生産增大のために、個數賃銀制や、生産競爭制（スタハノフ運動）などが行はれてゐる。さうして見れば、この場合においても、社會主義下においても、資本主義下におけると同じやうな方法が、採用せられてゐるものと見ることが出來る。たゞ資本主義下においては競爭の制度が、これを促進し、これに利潤の問題が關係して來る。從つて一般的保健に關係する食糧の如きものの生産及び配給について、資本主義下においては、利潤の獲得を主とする建前から、粗惡品の如きを供給し易い傾向は認めなければならぬ。（第五章及び第六章）

これらの問題の如きものが、社會主義と資本主義の經濟組織としての問題中、重要なものである。ピグーは、その正統學派の傳統を守る巨匠としての立場から、資本主義に同情を懷いており、社會主義に對して、より批判的である。殊に、資本主義について、問題となり得る點は、社會主義においても問題たり得ることを强調してゐる。この點において、このピグーの著述は、兩者の當失を考察しやうとするものに對して、特に研究を要するものであらう。しかし、ピグーは、資本主義に同情を持つてはゐるものの、これを絶對的に支持しようといふのではない。資本主義の漸進的修正によつて、その社會問題的害惡を漸減して行き、その最大の能率を發揮せしめやうといふのが、その立場である。僅々百五十頁に充たぬ小冊子ではあるが、社會主義に對する一批判として聽くべき多くのものを持つてゐる。一讀をすゝめる所以である。

ジョシッフ・マッシィ編一千五百五十七年より一千七百六十三年に至る商業・通貨及び救貧法に關する書篇及び小篇蒐集目錄

高橋誠一郎

第十八世紀經濟學說史上に於いて重要なる地位を占むる者にジ・シッフ・マッシィの在ることは普く人の知る所である。彼れは一千七百五十年の『自然利率論』（An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest; wherein the sentiments of Sir William Petty and Mr. Locke, on that head, are considered.）を初めとして、幾多の貴重なる小冊子を公にしたのみならず、長き年月と費用とを費して、一千七百六十年に至る迄に、英國の商業・鑄貨及び植民地に關する一千五百部以上の書篇及び小篇を蒐集し、而して其の蒐集の業を拋棄して後も、商業關係書籍目錄の編纂を繼續し、一千七百六十四年十一月二十九日に至り、之れを二千三百七十七項に達せしめた。現今、大英博物館に所藏せらるゝ Catalogue of the Massie Collection of Tracts (Lansdowne MS. 1049.) が是れである。（昭和七年版拙著『重商主義經濟學說研究』五九八—九頁參照）。

今茲に紹介せんとする Bibliography of the Collection of Books and Tracts on Commerce, Currency, and Poor